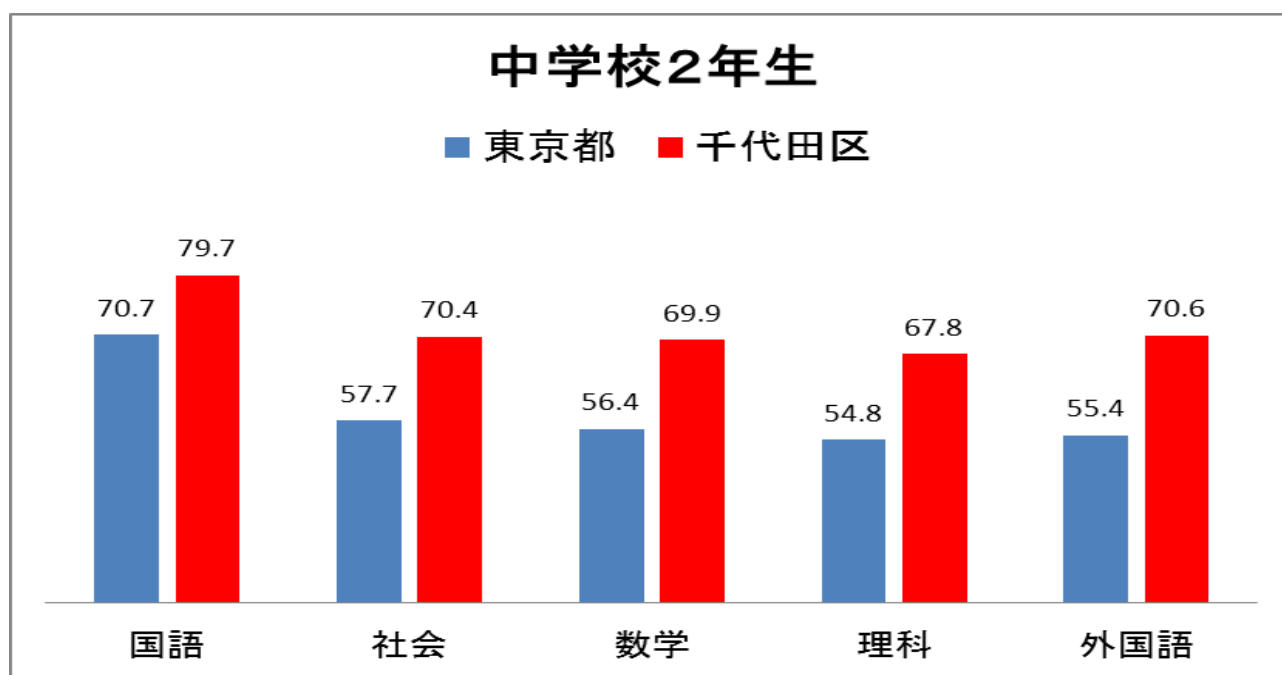
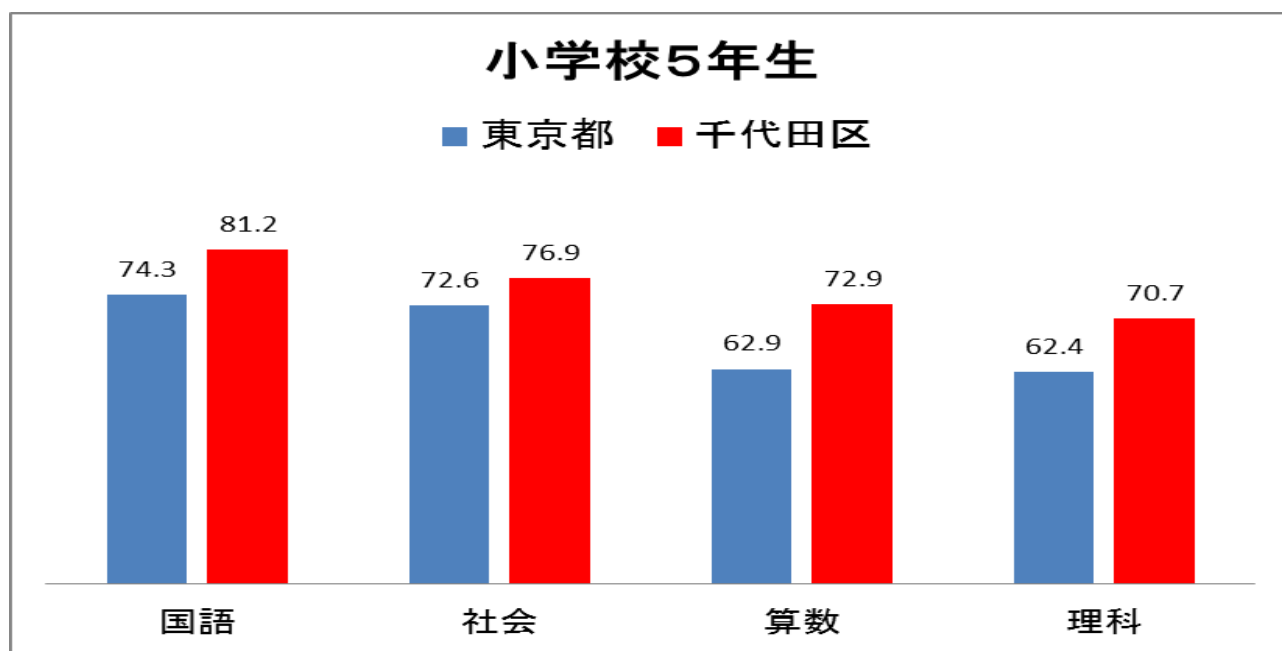


平成 2 8 年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査

- 1 実 施 日 平成 2 8 年 7 月 7 日 (木)
2 対象学年 小学校第 5 学年在籍児童 国語・社会・算数・理科
中学校第 2 学年在籍生徒 国語・社会・数学・理科・外国語

数値は正答率 (%)



平成28年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査

全体を通じて

- ・小中学校とも、知識・理解を問う問題については比較的正答率が高い。思考力・判断力・表現力を必要とする問題、活用問題の正答率は、全問題の正答率と比べ低くなっている。これは、東京都についても同様の傾向である。

このため、知識理解の定着を図る指導だけでなく、活用できる力をつけるための体験学習や問題解決型学習を取り入れた指導の充実を一層図っていく必要がある。

小学校5年生

- ・国語については、話す・聞く力を問う問題の正答率は90%以上が多く高いものの、書く能力の問題で、一部正答率が20%台と低い。
- ・社会については、知識・理解の問題の地図記号に関する問題の正答率が高いが、社会的な思考・判断・表現を問う問題、千代田区の場所を問う問題の正答率が30～40%台と低い。
- ・算数については、ほぼどの問題も正答率が70%を超えている。しかし、比較関連付けて読み取る力の問題、意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力の問題で、正答率が20～30%台と低い。
- ・理科については、あたためられた空気の性質を問う問題は正答率が約90%と高いものの、昆虫に関する知識・理解を問う問題、観察実験の技能を問う問題の中には正答率が40～50%台となった問題がある。

中学校2年生

- ・国語については、小学校と同様に、話す・聞く力を問う問題の正答率はほぼ90%以上が多く高いものの、書く能力の問題、図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力の問題の一部の正答率が40～50%台と低い。
- ・社会については、ヨーロッパの地形を問う問題、飛鳥時代、奈良時代、平安時代、室町時代の建築物を選択する問題の正答率が30～40%台と低い。
- ・数学については、技能を問う問題は90%近い正答率もあり高いものの、数学的な見方や考え方を問う問題、意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力の問題の一部は、30～40%台と低い。
- ・理科については、二酸化炭素の発生に関する知識・理解を問う問題についての正答率は、90%を超えるが、種子のつくりについての知識・理解の問題、観察・実験の技能を問う問題などの一部は、正答率が40～50%台と低い。
- ・外国語については、外国語の理解を問う問題の正答率が90%台と高いものの、動詞の使い方など表現能力を問う問題、言語、文化についての知識を問う問題の正答率が50%台と低い。